

CONTENTS

企画展 くらしと実学 ―在村知識人の活動―	2
第69回文化講演会	3
企画展 花、開く ―榕菴の植物研究―	4
資料館展示品から	5
NEWS FILE	6・7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

洋学 資料館

No. 13
June, 2014

みづくりけんぼ 箕作阮甫の養子・秋坪は、旧姓を菊池といます。菊池家は、秋坪から4代前の菊池応輔に始まりました。応輔はもともと田原金太夫といひ、常陸国土浦藩の代官として美作国吉野村下町(現在の美作市)の代官陣屋に務め、代官を辞した後は佐用で晩年を過ごして、1759(宝暦9)年に亡くなりました。佐用駅のほど近く、兵庫県指定天然記念物の大イチョウを見下ろしながら道を進むと、新緑が濃く影を落とす山裾に応輔の墓所があります。つかの間差した木漏れ日に、田原金太夫の名をはっきりと読みとることができました。(佐用町)



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING



4月19日(土)、69回目となる文化講演会を開催しました。講師にお迎えしたのは、天理大学准教授の小暮実徳先生です。小暮先生は19世紀の欧米とアジアとの交渉史を研究されており、当館の研究誌『一滴』にも論文をご寄稿いただいています。今回は、ペリーの日本遠征をテーマにご講演いただきました。

幕末の日本に大きな衝撃を与え、開国の契機となった黒船来航ですが、アメリカが艦隊を派遣した目的はいまだに定説がないそうです。これまでの研究では、アメリカの捕鯨活動の保護、太平洋横断汽船航路の確立、中国貿易の促進などがその目的としてあげられてきました。しかし、これらの説には疑問点もあり、再検討が必要である、との問題提起からお話を始められました。

続いて、アメリカ合衆国国立公文書館に現存する史料から、ペリー来航前後の国務省や海軍省の動向を検証され、アメリカの対アジア政策の変遷と、その背景にアメリカのアジアでの政治、外交的成果の欠如があったことを説明されました。そして、鎖国を続ける日本を開国させて自由貿易を確立し、その利益を各国へも与えることで、アジアにおける西欧諸国と同等の地位を確保しようとした、それこそがアメリカの真意であり、遠征の目的だったと結論づけられました。

史料に基づいた丹念な考証に、聴講された方々は熱心に聞き入り、終了後には質問も活発に出していました。市外からも多くの方が参加されており、終了後「面白いお話でしたね」と言葉を交わしながら帰られる姿も見られました。

第69回文化講演会

日米和親条約締結160周年記念

「ペリー司令官日本遠征の真意」

— アメリカ合衆国国立公文書館所蔵原文書による新解釈 —

講師 天理大学文学部准教授 小暮実徳先生

平成25年度冬季企画展「くらしと実学—在村知識人の活動—」を、11月30日(土)から3月16日(日)まで開催しました。

江戸時代、村に住む医師は、その地域を代表する知識人でした。彼らは、医術だけでなく算術や天文学といった、実生活に役立つ学問—実学を身につけて、村民の生活を支えました。

わたしたちの暮らしに、数学はなくてはならないものです。それがなくては、経済はもちろん日常のいたるところで生活が成り立たなくなってしまう。これは数学が算術と呼ばれた昔でも同じことでした。

江戸時代になって、農業中心の社会から、徐々に経済中心の社会へと変貌を遂げると、算術は生活にますます必要不可欠なものになっていきます。そして、日本の算術は独自の発達を遂げ、「和算」と呼ばれるようになりました。

田熊村(現在の津山市田熊)の中村家は、医業のかたわら、実学のひとつである和算の知識をいかして地域に様々な貢献をしています。中村周介とその弟の孫である嘉芽市は、人々に算術を教え、土地の測量を行って地図を作製しました。また、天文学を学び、暦の自作も試みています。そればかりか、たびたび氾濫する加茂川の水から田を守るため、掘り抜き用水路の掘削工事まで指導しています。周介・嘉芽市のもと、地域の農民たちが総出で貫通させたこの用水路は、「堀坂暗渠」と呼ばれ、現在も堀坂の地を潤しているのです。

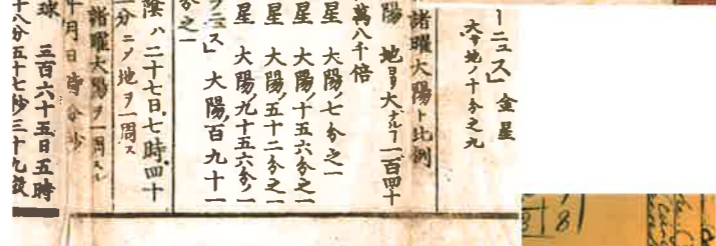
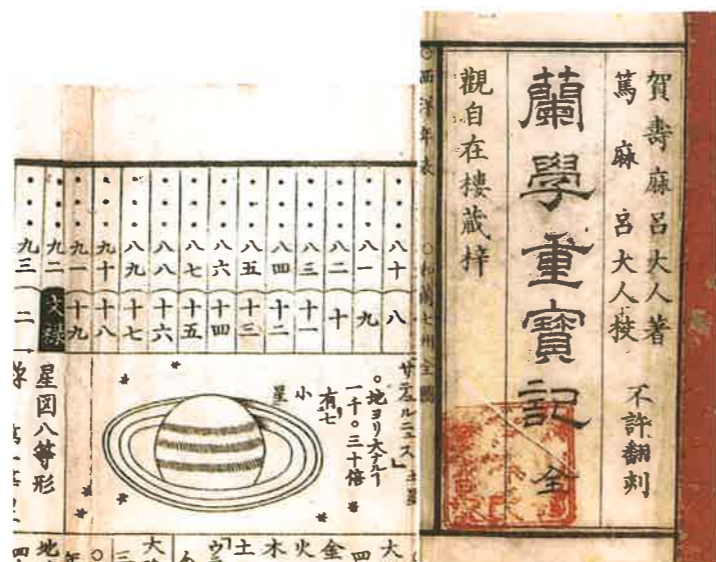
今回の企画展ではそんな中村家の事績を中心に、在村知識人の活動の一端をご紹介します。中村家に残された和算や天文学の資料を見て、周介・嘉芽市の学問レベルの高さに驚嘆し、周介の署名のある測量器具を見て、「こんなに簡単な器具で、難しい土木工事をしたのか」といった声も見学された方々から聞こえてきました。

ほかにも、展示室の壁に貼った和算の例題の前で頭を捻る方の姿が数多くみられました。

資料館展示品から

蘭学ハンドブックに顕れた 榕菴の学問修行

らんがくちょうほうき 『蘭学重宝記』



▲『蘭学重宝記』

▶常設展示室の榕菴コーナーの壁にある「榕菴先生雑筆」の記事

宇田川榕菴が1835（天保6）年に出版した『蘭学重宝記』には、オランダ文を翻訳・理解するために必要な事柄が盛り込まれ、内容は多岐にわたっています。

この『蘭学重宝記』の草稿と思われる記事が、榕菴の自筆資料「榕菴先生雑筆」（公益財団法人武田科学振興財団 杏雨書屋所蔵）に多数残されていますが、内容には少なからず違いがあります。たとえば、「榕菴先生雑筆」では月の公転周期は「二十七日半」ですが、『蘭学重宝記』では「二十七日七時四十三分」（現在の数値は27日7時

間43.1分）となっています。この差はどこから来るのでしょうか。

日本にもたらされた漢訳西洋天文学書に『天経或問』があります。ここでは月の公転周期は「二十七日三十刻」とされています。中国の単位で「刻」とは現代の15分を指しますので、7時間30分ということになります。日本では「刻」は約30分ですから、単位の換算を行わず、表面的に理解すると、約半日ということになります。つまり、榕菴は最初『天経或問』に基づいた日本の書物で天文学を学んだのではないかと

と思われる。『蘭学重宝記』では正確な値に修正しているのですが、これは榕菴の義父玄真に教えを受けたのではないのでしょうか。大槻玄沢が訳し、玄真が校正した『厚生新編雑集』の「月輪」の条では、月の公転周期は「廿七日七刻四十三分」となっています。榕菴は、義父から自分の天文の知識が最新のものではないことを教えられ、それを認めて訂正したと推測できます。

想像の域を出ませんが、洋学を一生懸命に学ぶ榕菴と、それを教え導く玄真の姿が目に見えそうです。文：学芸員 乾康二



▲「植学啓原図 色校正原稿」。皆さん榕菴の自筆の修正に見入っていました。



▲葉っぱに墨をつけて、紙に写し取りました。



宇田川榕菴が『植学啓原』を刊行してから、今年でちょうど180年をむかえます。

「日本で最初の本格的な植物学書」といわれる『植学啓原』ですが、榕菴が書き残した「自叙年譜」を見ると、完成までには長い研究の積み重ねがあったことが分かります。10代では、薬の本となる植物を研究する「本草学」の修業に励み、17歳で蘭学の勉強を開始。そして20歳の時、『叔氏韻府』（オランダ語の家庭用百科事典）を読んで、初めて西洋には「植物学」という学問があることを知ります。

そこからさらに25歳での『普多尼訶経』の刊行、シーボルトとの交流を経て、36歳でついに「不忝所生」と自負する『植学啓原』を刊行したのでした。本展では、榕菴が飽くなき探求心で、未知の学問であった「植物学」の研究を開花させていった様子を、約30点の刊本や植物図からご紹介しました。

会期中には展示解説を実施し、参加された方は「植学啓原図色校正原稿」に細かく書き込まれた修正の指示を見て、榕菴の植物図に対するこだわりが感じられました。

5月10日（土）には、リクエストによるワークショップ「葉っぱの拓本作り」も実施し、小学生14名が挑戦してくれました。

NEWS FILE
冬季企画展関連講演会「算術入門」開催

2月16日(日)、津山市立図書館の大倉淳一館長をお招きして、冬季企画展「くらしと実学」の関連講演会「算術入門」を開催しました。

数字を使った指遊びから始まり、鶴亀算や油わけ算など、色々な問題を解説していただきました。講演の最後には、企画展示室にパネルで掲示した算術問題のヒントもご説明くださり、終了後早速展示室へ行って問題に挑戦している方もたくさんいらっしゃいました。

算術というと、難しいイメージが先行しがちですが、考え方を分かりやすくお話しくださったので、参加された皆さん興味深く楽しんでおられた様子が印象的でした。



資料館前庭で
城東地区消防訓練

3月2日(日)、資料館の前庭を含む城東町並保存地区で、消防団や津山圏域消防組合、城東支部防災・防犯会などによる消防訓練が実施されました。



▲消防訓練の様子

FMつやまで
ラジオ放送が開始

市民ラジオFMつやまの番組「好きです!つやま!780」の中で、4月から「洋学資料館から」と題して洋学の話が放送されます。

これは、ラジオ局のパーソナリティと資料館の乾次館長が、対談形式で津山の洋学について紹介するもの。月2回(1回は再放送)のペースで放送され、次回は6月28日(土)午前9時からの予定です。受信可能な地域は限定されますが、津山周辺の方はぜひ聴いてみてくださいね。

当日は夜明け前から準備がはじまり、午前7時、資料館南側の民家から出火との想定で訓練が開始しました。放水には、資料館前庭に埋設されている防火水槽の水も用いられていました。訓練とはいえ、緊迫した雰囲気の中、皆さん真剣な面持ちで消火活動に取り組んでいました。

シンポジウム「箕作家の人と音楽」開催

5月21日(水)、津山国際総合音楽祭のプレイベントとして、資料館のGENPOホールを会場にシンポジウム「箕作家の人と音楽」(主催:津山国際総合音楽祭委員会、共催:津山洋学資料館友の会、後援:津山市、津山市教育委員会)が開催されました。

第1部ではソプラノ歌手の大島良子さんが、箕作秋吉(阮甫の曾孫)が作曲した「お月さま」などを透きとおるような声で歌われ、

中盤には秋吉作曲のメーデー歌「世界をつなげ花の輪に」を参加者と一緒に合唱する場面もありました。

第2部では、菊池大麓のご後裔にあたる関西フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者の藤岡幸夫さんを囲んで、指揮者を志された頃の思い出や音楽祭で指揮する「マラー交響曲第6番」についてなどお聞きし、皆さん興味深そうに耳をかたむけていました。



美作高校PTA総会で、館長が記念講演

5月17日(土)、岡山県美作高校のPTA総会で、「洋学者たちのあくなき挑戦」医学から科学へ」と題して、小坂田館長が記念講演を行いました。

保護者や学校関係者の方約130名が参加しておられ、宇田川家や箕作家をはじめとした津山の洋学者たちの活躍についてお話ししました。

後日、「津山に生きる本校関係者にとっても改めて元気をいただいたご講演でした」と、感想のお手紙を寄せてくださいました。



ガールスカウト、資料館見学を実施

5月18日(日)、「ガールスカウトの日2014」で、ガールスカウト岡山県連盟の皆さん130名が来館されました。

「展示室入口と出口のドクロのマークは何個?」「江戸時代のお医者さん(藩医)の髪型は?」など、持参された資料のクイズに挑戦しながら、小学生から大人の方まで、皆さん楽しそうに展示を見学していました。

当日は好天に恵まれ、見学後には青空の下、資料館の前庭で閉会式を行っていました。



▶お話しされる藤岡さん(右)と聞き手の小坂田館長(中央)、森元津山文化振興財団常務理事(左)
▼大島良子さんとピアノ伴奏の先本潤子さん



平成26年度の催し物(予定) 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「花、開くー榕菴の植物研究ー」 19 第69回文化講演会 講師：天理大学准教授 小暮実徳 先生 19 友の会総会 (休館日：21・28・30日) 	3/23～ 花、開くー榕菴の植物研究ー ～6/22
5月	(休館日：7・8・12・19・26日)	
6月	8 友の会研修バス旅行 (休館日：2・9・16・23・30日)	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「資料・モノ・がたり」 26 親子でヒンデローペンの作品づくり 27 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：7・14・22・23・28日) 	7/5～ 資料・モノ・がたり ～9/28
8月	2 江戸時代の化学書からの再現実験教室 (休館日：4・11・18・25日)	
9月	(休館日：1・8・16・17・22・24・29日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「新館開館5周年記念 平戸松浦家伝来の至宝」 11 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム「松浦家史料の魅力(仮)」山本博文先生・岩下哲典先生 (休館日：6・14・15・20・27日) 	10/11～ 新館開館5周年記念 平戸松浦家伝来の至宝 ～11/9
11月	(休館日：4・5・10・17・25・26日)	
12月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会史跡見学会 企画展「生誕190周年記念 箕作秋坪」 (休館日：1・8・15・22・24・29～31日) 	11/22～ 生誕190周年記念 箕作秋坪 ～3月中旬
1月	<ul style="list-style-type: none"> 学芸員による研究報告会 (休館日：1～3・5・13・14・19・26日) 	
2月	(休館日：2・9・12・16・23日)	
3月	(休館日：2・9・16・23・24・30日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

夏休み教室 参加者募集!!



A 親子でヒンデローペンの作品づくり

オランダの民族模様でペン立てに絵を描きます。

7月26日(土) 13:30～16:00

- 対象：小学4～6年生と保護者 10組 20名
- 参加費：1点作成 2,300円・2点作成 4,000円

B 江戸時代の化学書からの再現実験教室

宇田川榕菴の化学書『舎密開宗』に掲載された実験を行います。

8月2日(土) 10:00～12:00

- 対象：小学4～6年生 20名

応募方法：往復はがきに、①氏名 ②住所 ③電話番号 ④学校名・学年 ⑤希望の教室(A・Bいずれか)を記入の上、津山洋学資料館までお送りください。
締切：7月18日(金) ※応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

＜送付先＞ 〒708-0833 津山市西新町5 津山洋学資料館

ヒンデローペン絵付け体験教室 (一般向け)

① 1日コース

ティッシュボックスにオランダの民族模様ヒンデローペンの絵付けをします

7月27日(日) 9:30～16:30

- 定員：3名(先着順)
- 参加費：7,000円



② 半日コース

傘やウェルカムプレートにオランダの民族模様ヒンデローペンの絵付けをします

7月27日(日) 13:30～16:30

- 定員：傘7人、プレート10人(先着順)
- 参加費：いずれも3,200円

①②の申込み方法 電話でお申し込みください。
お問い合わせ 津山洋学資料館 23-3324

ご利用案内

- 開館時間／9:00～17:00
(入館は16:30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)
- 入館料／

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



津山洋学資料館
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



● 交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分